

第2回新城市福祉従事者支援施策推進会議会議録

日 時 令和4年6月16日(木) 午後6時～

場 所 災害対策本部室2, 3

(前澤座長、あいさつ)

少しづつ進んでいるという手ごたえを感じています。新年度になって推進会議が動き出して、具体的なことが一つずつやっていると、条例を作った意味が形になっていって嬉しいと思います。今日も皆さんからいろいろなご意見をいただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

2 検討事項

(1) 各実行委員会チームの状況について

① 魅力発信チーム

(事務局) 5月18日、水曜日に実行委員会を開催しました。会の趣旨等を説明させていただき、どんなことをやりたいかというようなことを皆さんに自由に発言していただきました。

その中で、令和4年度の事業としては、まずイベントの開催を目標にしようということで、今年については、連携推進チーム、事業所支援チームと合同で、今年中に1回イベントを開催したいということ話をしました。そこでは、福祉従事者や福祉関係の写真コンテストや動画を紹介したい、また、広報やいいじゃんしんしろでのPRができるといい、というような話が出ました。

他に出了意見としては、今あるイベント、例えば軽トラ市とか、スポーツ大会などで福祉になじみの薄い人にPRするとか、市民に福祉の何を伝えたいとか、どういことを伝えたいのかっていうことを絞っていく必要があるとか、あと福祉の疑似体験ということで、ピアゴのエスカレーターに目隠しして上がるとか、何か工夫をすれば、いろんな場所で、お金もそんなにかけずに福祉のことを知ってもらうことができるとか、あと、ハローワークに求人募集をしても応募はなかったけれども、事業所のホームページに職場の動画を載せたら、楽しそうだと応募してくれたということがあったので、動画や写真を使ったPRは効果があるというような話から写真コンテストとか動画っていう話が出ました。また、中学生が企業の職場を動画撮影しているという情報があつて、その中学生が動画発信することで、福祉にあまり関心のない方にも、関心を持ってもらえるかもしれない、ということや令和5年度の事業を継続する、といった話もありました。

来年、どんなことをやりたいかというところについては、写真コンテストと動画の作成、あと、魅力発信グッズのパネル作成が上がりました。令和5年度の事業の予算としては、30万円ほどを考えています。特に、令和5年度の事業としては、魅力発信ができる写真コンテストや動画、特に動画については、子供たちが福祉の職場体験をする前に学校で動画を見てもらって、少しでも福祉の職を選んでもらえるような教材として使えるといいという意見が出ました。教材として動画を作るにあたっては、プロの編集が必要かもしれないということで、10万円ですりかかわらないですが、4年度の予算と違うところになっています。この推進会議を経て6月21日火曜日に第2回目の実行委員会を開きます。そのときに、今日の推進会議の結果を持ち帰って、今年1回あるイベントについて、スケジュールを立てていかないといけないと思っています。以上です。

② 連携推進チーム

(事務局) 連携推進チームについては、5月17日と6月8日の2回、実行委員会を行いました。第1回目のときには、来年度何をやるかということ、1人、三つずつぐらい事業上げていただきまして、決まったのが、合同職員研修を引き続き行うということと、階層別研修を行う、あとはほいっぷネットワークの利用拡大という三つの事業を来年度やっていきたいという話になりました。

また、できれば、3つのチームの事業を同じ時期にやりたいという話になって、今から準備していくと、11月、12月ぐらいになってしまいますが、その頃、文化会館小ホールの天井の貼り換えがあって使えなくなるということが分かり、会場をどこにするか検討することになりました。

第2回目ですが、まず今年しっかりテーマを決めて、来年につなげたいということで、今、テーマにするなら「地域共生社会」と言う言葉がキーワードとして出てきますが、「地域共生社会」というタイトルにしてしまうと、市民の方が私、関係ないわというイメージになりやすいので、もう少し市民の方が聞いてみたいと思えるようなテーマの付け方にしていきたいと思います。

予算については、資料に書いてある通りですが、チラシの印刷製本費代を追加したいと考えています。

あと、来年度ですが、合同職員研修は、本年度の参加者からさらに裾野を広げていけるような研修をしたいということと、階層別研修について、アンケートの中で3年を境に離職する方が多いということなので、初任者として1、2年目の方たち、中堅は3年以上、あとは管理者に分けて研修を実施してはどうかということになりました。予算につきましては、合同職員研修は大ホールで、階層別研修につきましては、3つとも小ホールでの予算を考えています。連携推進チームについては以上です。

③事業所支援チーム

(事務局) 事業所支援チームですが、実行委員会を、5月18日と5月30日の2回開催いたしました。

4年度の事業概要ですが、市内の福祉サービス事業所に継続して勤務されている方に、永年勤続表彰を行います。

離職しやすい年があると思われるので、節目節目に表彰を行うことにより、モチベーションを上げるきっかけになる。孤立しがち、また埋もれがちな現場職員もいるため、表彰により福祉を支える一員として評価されたと感じてもらえることができるということで、永年勤続表彰を令和4年度に実施するという事で、目的や表彰の要件について、話を進めました。

目的としては仕事にやりがいを感じ、モチベーションを向上させることにより、より一層仕事に励み、職場に定着することを目的とする、要件としまして、市内の施設や事業所等で勤務しており、その年度の勤続5年以上の方を表彰の対象とする、これに対する意見として、利用者に対する対応がすぐれているとか、新人職員や後輩職員への指導助言に携わり、チームワークの向上に貢献しているとか、仕事に積極的に取り組んでおり憧れとなるような働き方をしている等、職場でキラリ輝いている5年以上勤務している職員を表彰したらいいのではないかという意見が出ました。年齢を限定せず、勤続年数での要件の方が良く、なるべく若い方を対象にしたらいのではないかという、意見がありました。

対象とする人数ですけれども、市長から直々に表彰をしていただくことを考慮すると、15名くらいがよいのではないかという意見にまとまりました。

選出方法ですが、募集期間を定めて、幅広く事業所等でキラリ輝いている人を推薦してもらい、推薦内容を選考し、15名の方に表彰を行う。各事業所で1名推薦していただき、15名を選考する。選考は、推

進会議のメンバーか、実行委員会で選考する。名称について、永年勤続表彰という名称について違和感があるということで、永年勤続の方を表彰する点や、若い人の働く励みになる、ステップアップに繋がるような表彰という点を考慮して名称を変更する方向で考えております。オリジナルなネーミングがよく、あまり堅くないものがよいという意見で、例えばキラリ新城福祉賞というような案がありました。

続いて記念品、表彰だけでなく記念品を出したらどうかということで、その記念品についても新城の福祉オリジナルのものがよいのではないかとということで、例えば、やなマルシェさんでかごを作っていただいて、その中にレインボーハウスさんのクッキーやシャロームさんのお菓子や、やすらぎの家の小物やもくせいの家のしいたけ等の詰め合わせセットに、プラスいいじゃん券を入れさせていただいて、1人5000円ぐらいで記念品を渡したらどうかという意見がありました。

表彰の方法や場所については、合同研修と同じ会場で表彰を行う方がいいのではないかとということで、大ホールか大会議室になるかと思えます。

続いて令和5年度に実施したい事業についてですが、就職祝い金を令和5年度に実施したらどうかという意見があったんですが、もらってすぐやめてしまったら元も子もないということで、少し働いてからの方がいいのではないかと、という意見がありました。あと資格取得への補助金はどうかという話がありまして、資格取得の補助金なら本人も事業所も大変うれしいのではないかとということで、資格取得への補助金を次年度の事業として考えてみました。資格取得に対して市からの助成制度があるといいとか、自己負担で取得する人が多いので、助成制度があれば、資格取得を目指すことに繋がるのではないかと。資格取得により仕事の質が上がり、よりよい人材育成につながり、利用者へのより良い支援に繋がるという意見がありました。あと事業所によっては給料に資格手当があつたりすることから、資格を取りたいと思う人がいるが取得にはお金がかかる。頑張ってる人、頑張ろうとしている人を応援していきたいという意見がありました。資格取得の助成に対して、どんな内容について助成していくか、現在どんな資格助成があつてどの部分の資格助成が必要となるか。いろいろと調査する必要があるのではないかとということで、この資格取得への助成について、令和5年度に実施できるのかどうか、ちょっと今のところ未定となっております。令和4年度の永年勤続表彰に関する予算については、15万8700円ぐらい。令和5年度についても、継続で永年勤続表彰を、同額で計上をさせていただいております。説明は以上です。

(委員) 永年勤続表彰について、先ほど3年ぐらいで離職されるという話がありましたが、これを5年に設定したのはなぜですか。3年で離職する率が高いのなら3年でやめそうなときに表彰したほうがいいのではないですか。

(事務局) 実行委員会の話し合いの中では、特に3年という数字でなくて、5年という意見が多かったものですから、実行委員会の中では5年っていう数字でまとまりました。

(委員) 離職についてよく言われてるのが、離職した人の7割が3年って言われてます。意見なんですけど、連携推進チームの方で話し合ってる中で、地域共生社会、最近の一つ大きなキーワードで、それこそ我が事丸ごとがあつて次にこの地域共生社会という言葉が出てきた。一般の市民にとっては本当にわかりにくい言葉、難しいと言う意見がボランティアの代表の方たちから出ました。僕が伝えたいのは、この条例の前文、今回の条例ってこの前文が結構命、ということをお伝えした。条例の前文の一番最後のとこ

の三行に書いてある。「共に繋がりともに支え合う地域共生社会の構築を図るために、本条例を制定します」と書いてある。まず、私たちが地域共生社会って何だろうというところを理解する必要があるし、難しいことではないと思うんですけど、やっぱりそこからスタートするという事は、言葉は難しいんですけども、地域共生社会、条例が本当に実行していくためには、このテーマをまずは掲げて、第1回目スタートして、1回で終わることではないだろうから、引き続きこれを深めていく、広げていくっていうことができるという、という話をしました。地域共生社会についてお話いただきたい。

(委員) この地域共生社会という言葉はここの会議に来て知ったんですが、さらっとだけ皆さんにシェアしようとする、今、高齢支援とか障害支援とか、若者とか児童とか、生活困窮とか、そういう縦割り、その隙間がどうのこうのって言われるんですけど、実はそうじゃなくて、もともと地域で支え合って生きていた。親が帰ってくるのが遅ければ、うちで子供を預かってあげるよ、とか地域が支え合って生きてきたところのベースがあって、その土壌の上で、地域が高齢になってきて、やり方に対して支援が足りなくなってきた。だから、高齢の支援と支え合えない部分だけ行政でやりましょう。障害の部分も同じように出てきた、生活困窮者が出てきた、児童の部分が出てきたということで、地域で支えられないところを専門分野として行政が制度を作って支えてきた。そしたら今度は、地域が核家族も増え、共働きになり、お互いが支え合うというか、それぞれの家庭が個別になっていって、もともとあった支え合うような地域の形ではなくなってきた。なくなってきたから今度は支え合う仕組みだけで支えるようになった。そうするともともと土壌にあったところで、足りない部分を行政が制度で作ってきたところで補ってきたのに、この土壌がなくなって制度だけになったから、隙間があるっていう言い方になった。隙間はもともと地域で埋めていたところであったので、という話を上手に説明してくれる方が、今、長久手にいる。厚労省から出向している方がいるので、その方にも一緒に話してもらい、従事者みたいな人が聞くと、今話をより濃く聞けて、なるほど、だからやるんだね、もっとこうなるといいんだねってことが、みんなシェアするところから、この取り組みがスタートできるというのかなっていう話をこの間しました。

(委員) 福祉従事者というのは、福祉の仕事、従事者、仕事に就いてるだけじゃなくてボランティアさん、全部含むという話が前回あったんですが、この事業所支援チームの事業は、ボランティアさんとかは含まないのか。

(事務局) ここで言う事業所は、お給料を出している事業所さんに対する支援ということです。

(委員) 表彰について、仮に対象になったとしても、あまりそれがモチベーションに、僕、個人的にはあまりないかと思った。例えばボランティアであつたりとかして、地域のために支えてくれたという人たちが表彰される対象であれば、なるほどと僕の中ではしっくりきていたものだから、ちょっと確認させてもらいました。

(事務局) それは会議の中で検討していただきたい。制度的に変えるのはあります。

(委員) 僕はそう思ったけど、皆さんは表彰してもらえるんだったらやりがいがあります、と思われてた

ら、すいません。個人的な意見なので。先ほどのキラリという人を出す事業所側も選別に困ったりしないのかなとか、選ばれた人は、私なんかと思うか、やった！となるのか、僕の中では、ちょっとピンとこないと思うから、皆さんはどう思われるかなと思って、ちょっと言いにくかったけど発言しました。

(委員) 私も豊川市で勤めてるので、豊川市で表彰されたんですけど、勤続年数が上がるとみんな表彰されるんですよね。賞状もらってじゃあ何が嬉しいかって言ったら全然嬉しくない、給料に反映されれば、すごく嬉しいんだけど、いらないですね。ただそれと、15名という選択で、誰が選んだとか、そういったところでぎくしゃくしないかなという心配と、その15名が妥当かどうかというところもあって、15名っていうとかなりの量になってくるんだけど、これが新城市の中で1人2人だったら、それこそ名誉なことになってくると思うんだけど、そこをみんな目指すかといえば、失礼ですけど、目指しませんよね、という感じはしました。

(委員) 今、僕寄りの意見が増えてきたんですけど、逆に反対の人が意見を言いにくくなっていてたすいません。いや、そんなことはないっていう意見を出してもらえたらいいなと思います。その意見は出なかったですか。

(事務局) 自分が個人的に思うのは、このキラリ輝く人を継続して表彰していくわけだから、魅力発信に繋がることにならないかと考えて、表彰された方について、何か動画で撮影して、第1回目の表彰者みたいな感じで、毎年15人表彰されていることで、何か魅力発信とか、その事業所の紹介とか、事業所支援という枠にとらわれず、魅力発信にもつなげていっていったら、というような気持ちがあります。当初は50名の予算だったんですが、50名に対して表彰するのはいかがかというところから15名が妥当ではないかというような感じになっております。

(事務局) 予算は、表彰50名、1,500円の額縁を50名に差し上げる予算になっています。額縁はもらっても仕方ない、もうちょっと、ちゃんとした記念品っていう形のものを送った方がいいとチームの中で話し合っていました。7万6000円ぐらいの予算があるので、ひとり5000円相当として15人と単純に計算しています。いろんな分野から15人を選出していくのは難しいので、例えば、今年はどこどこ分野の15名、次はどこどこ分野から15名と分野ごとに分けるのも一つの方法ということは、言っていたと思います。制度立てをしっかりと考えてからじゃないと、予算化も事業化も少し難しいと思ってますので、ちょっと補足だけさせていただきます。

(委員) 皆さん、働いていて何でモチベーションが上がりますか。皆さん、学校などに呼ばれて、人前で話すことが結構多いですよね。そうすると、また頑張ろうって思いませんか。

(委員) どうですかね。聞いてくれる人たちが喜んでくれたらいいと思うのと、あとは、自分のしゃべる練習場所になっています。スキルがあがって、うまくしゃべれば、面白いと思ってもらえるかなとか、聞いてくれるかな、という感じです。

(委員) 賞状をもらってモチベーションが上がるんだったら、賞状でいいと思うんですけど。この前、私が軽トラ市で一瞬テレビに出た時にテレビに出たねって言われて、そうすると次も頑張ろうって思います。多分、福祉をやってる人ってみんな、そのくらい単純じゃないのかなと思うんです。ありがとうって言われるその言葉で明日も頑張ろうっていう気持ちがあると思うので、表彰とか物じゃなくて、例えばその人の頑張りをピックアップして、ティーズのいいじゃん新城に1コーナーを作って流すとか。日々こんなことやってすごいですね、すごい頑張ってるねって言われると、その人のモチベーションがすごく上がってくと思うんです。何か表彰よりそういったもので、毎月毎月、各事業所で1人ずつピックアップして、年齢とか年数といったものじゃなくって、何かそういったものがないのではないかと思います。

(事務局) 前に広報ほのかに、若者キラリ輝くというの毎月1人ずつ載せていたというのがあったんですけど、あんな感じですかね。

(委員) 動画の方がわかりやすいと思います。PRも兼ねてその人のモチベーションも上がっていかないかなと思いました。

(座長) 今の話は、それぞれのチームへお返しして、次の話し合いの材料にしてもらえばいいと思います。動画でのPRについて、具体的にになった時には事業所支援チームと魅力発信チームが合体して取り組むようにするかもしれない。ひとつのチームでやるのではなくて、ここと一緒にやるほうがいいとか、こっちと相談するとうまくというのはありだと思います。

(委員) 今後、人を集めるのに事業所をお願いして、みんなに告知していくと思いますが、事業の内容を説明して、こういう人を出して欲しいとか、参加して欲しいって働きかけるのであれば、現時点で、市内の事業所にもう説明しているのか。いつ説明するのか、ぎりぎりでもいいのか、早急に通知するのか、どんな内容をやるのかも説明しなければいけないと思う。賛同してくれるのか、やりたくないって言われるか分からないですけど、いつごろ通知するのかというところがちょっと気になります。

(事務局) ポイントが三つあると思います。
まず、このイベントを合同で開催するかどうか。今のところ予定では12月18日が予定されています。その日で進めさせていただいていいか。それから、この事業自体をどうやって周知して、盛り上げていくか。今日はその方向性をつけておきたいと思います。今すぐ決めれないということであれば、次回まで持ち越しでもいいです。

(座長) 今日は、それぞれのチームから、今こんなふうに進んでるって話を聞かせてもらって、それに質問とか意見があったら出してもらおうというのを私は想像してたんだけど、三つのチームで動いているけれど、これが一つの場所に集まって実現しようと言う提案というふうに受けていいですか。それが12月18日ということですね。会場は押さえてありますか。

(事務局) 仮で押さえてあります。そこしかない感じです。

(座長) 今ここで、それぞれのチームが動いてる話はみんなで共有しました。今、12月18日の会場が仮押さえしてあります。それぞれのチームで準備をしている内容は検討されるかもしれないんですけど、ここで一緒に一つの場所でやろう、ということで動いていって構いませんか。いいですよと言っていたら、そっちへ向いて、準備をしていきたいと思えますけど。

(委員) 私、当然三つまとまって、12月18日にそれぞれ三つのチームが練ったものをそこで作っていく方式だと理解してました。それから、市民の人たちに、福祉の方々がこんなふうに頑張ってるってことを周知徹底していかないと駄目だと思いますので、できるだけ大勢の関係者だけでなく、その関係者のご家族の方であったり、ボランティアであったり、そういう一般の人がどんどん参加できるような仕組みにしていくべきだと思いますので、やっぱり三つのものをすべてそこに集結して、大きなものになるか、小さなものになるか分かりませんが、立ち上げていかないと関係者だけでかかまんに終わってしまったんでは、それは意味ないなと思います。一般市民にわかりやすい言葉で、こういうことをやっていくということがわかるような、そんな会を作っていくべきではないのかと思います。

(座長) それでは12月18日、会場は大ホールで、みんなと一緒に、一つのことをするというのを目標にして、これからそれぞれにチームの話し合いを進めていくということで、よろしいでしょうか。それから今おっしゃったみたいに、関係者だけじゃない人が集ってくれるような工夫もしながら、準備していきたいと思えます。

(委員) 共生の講演会は大ホール、魅力発信のパネルとか展示の部分は展示室とかですね。

(委員) 連携推進チームでは、大ホールを予算で押さえてあって、そこで研修やりますと言っている。事業所支援チームは、その会場で表彰すると言っている。魅力発信チームは今年中に1回イベントを開催すると言っている。一緒にやらないという選択肢はないのではないかと。

(座長) 確認ですが、12月18日に向けて準備を進めていく、それから、お知らせはどなたにもいらしてください、関心がない人には特に来て欲しいという気もするんですけど、そんなふうにして進めていくということで、これで検討事項の(1)に関してはよろしいでしょうか。いつ頃までに決まっていけないとか、そういうのも具体的なことがわかったら、この次の時にお願いします。

(事務局) そうですね、スケジュールを考えます。

(委員) どうして行くのかというところで意見があればなんですけど、日程は決まった、なにやるかってことは具体的には決まっていけないものの、ざっくり福祉フェスやりますみたいな話だとします。いつ、どこでこんな目的で、こういうことをしますと発信して、もしこんなことしたいっていうのがあるなら皆さんからもご意見ください、いつまでにみたいなことしたら意見が来るか来ないのかわからないけれども、

ここに参画してる人だけじゃない人からも、こんなのをやったらどうっていうのがもしあるなら、募ってみるのもいいのかなとちょっと思いました。

(委員) 今、僕はたまたま「ちさとプレーパーク」を作っていて、あれは子供のために地域の大人がやっ
てることだから、福祉というか、福祉じゃないとも言い難い、みたいなことで言うと地域のために、地域
の暮らしやすい地域づくりのためにいろんなことをしてるのは全部ひっくるめて総じて福祉でいいかな
と思ったときに、そういう人たちも参画してもらえるといいと思う。そういう、ちょっと参加できる人た
ちにも案内を出して、私たちも展示したいとか、写真出したいとかって言うてくれたらそれはそれでい
いだろうし、そんな感じで関係人口を増やしていけばいいと思いました。ここだけで企画してくのも、そ
れはそれでいいと思うんですけど、意見出るかどうかわからないけど、もう日程だけは発信して、事業所
でひとりか2人来るように日程を押さえておいてね、みたいな話だけでも、案内を、まず見切り発車でし
てしまうのもありなのかなと思いました。

(2) 推進施策評価シート(案)について

(座長) 次第の(2)に行きたいと思います。推進施策評価シートについてです。

(事務局) 推進施策評価シートですが、事業自体の検証評価を推進会議でしていただきたいと思っ
ております。今年度実施する事業について、このシートによって、事業内容、目標、方法をまとめていただ
いて、現状を理解した上で、事業の必要性や適切性、有効性、課題を把握する。そこまではチームの方で書
くような感じになってます。実際にやった後に、一番下に評価検証とあるんですが、これは推進会議の方
でやっていただきたい。事業達成度合いや施策の貢献度合い、やりがいを持って働けるような効果があ
ったのかどうか。市民への影響といったところを、この評価でやっていただきたいと思っております。
この総合評価で、これはいい、継続していく、拡充していく、これは見直したほうがいい、というのがあ
れば、この総合評価に書いていただく。チームごとに今年度実施予定の福祉フェス、合同研修、永年勤続
表彰についてのもので作ってみましたので、これを例に、皆様に作っていただき、評価していただき、次
年度以降の事業施策に役立てていきたいと考えております。

(座長) 年度末に、1つの事業につき1つですか。

(事務局) はい、そうです。

(委員) 総合評価のところ、継続実施、拡充実施、改善見直し、休止廃止とありますが、継続実施と拡
充実施の違いがわかりづらいと思いました。四つに分けるのは難しいと感じます。

(座長) 継続実施なのか改善見直しなのかというところだけでもいいような気がします。
同じ様でいいというのと、どこかを変えてやろうというのと、もうやめちゃうという3つ、その方が評価
する人はやり易いかもしれません。3つの評価をお願いします。

(委員) 事業費のところ、予算額がありますが、4年度は、決算額がいるのではないかと。ちょっと小さい

表になりますが。

(事務局) 4年度は予算案と執行額の両方、5年度、6年度は予算額とします。

(座長) 他にいかがでしょう。初めてのことなので、やってみないとわからないところがありますが、とにかく初めてのことをやってみましょうという提案です。あと、その他になりますが、アンケートの説明があるのででしょうか。

(事務局) 第1回の推進会議の時に、円卓会議からずっと来ている方はいいんですが、そうでない方はアンケートのどういうところから20の施策が出てきたかという分析的なところを、という話でありましたものですから、一部のチームの方にはご説明をさせていただいたのですが、改めて説明させていただきたいと思います。

まず、令和元年8月に福祉従事者に対しましてアンケートを実施しました。正規非正規職員1700人ほどに47問ほどのアンケートを行い、1,500人から回答をいただきました。それを集計し分析した結果で、この20の施策に繋がっているところです。抜粋という資料がついておりますが、これはまた見ていただくとして、A4横1枚の赤青黄の色がついたものを見てください。これは当時、検証結果ということで、まとめたものでございます。47問の定形の質問、プラス自由意見が結構ありました。自由意見の中には赤裸々的なものも一部あったんですが、そういうのも加味した上でできています。一番上から説明しますと、検証項目というのがあって問39、問6、問7とあります。これは、例えば現在の業務で働きたいですか、今の仕事を何年続いていますか、やりがいはありますか、といった質問です。

その中で、この業務を継続していきたいという人の意見の中には、自分が役に立っているということが自分の自信に繋がっていて継続意向が強いということです。そういったことをPRしていくということが大事というところから、魅力発信チームにあるような、フェスを始め写真展等の施策に繋がっているところです。

次ですが、ストレスに関する問いとか、ハラスメントに関する問いがあります。ストレスやハラスメント等がある場合には、離職移行が強いということで、管理者、雇用者を含めた研修の実施が必要ではないか、ということで連携推進チームの研修の施策に繋がってます。

また、スキルアップの機会とか、仕事に対する感じ方といった設問では、スキルアップの機会があった人ほど、やりがいを感じているという結果が出ております。そういうことから合同研修等を行って、共通認識を持ち、共にステップアップができるような研修等を行った方が効果的ではないかということで、研修施策に繋がっております。

次に、仕事に関する相談先や相談体制がしっかりしていますかという設問に対して、しっかりしているという人は継続意向がありました。そういうところがないという人は、離職傾向が高い傾向にありましたので、そういったことから相談窓口、相談体制の強化が必要だということに繋がってます。

次に、やはり賃金系、労働条件系、また労働改善系の設問がありまして、労働条件を良くして欲しいという意見が多々ありました。ですが、賃金アップというのは難しいということで、少しでも事業所を支援していく中で労働改善がされていくことを考え、事業所支援チームの助成制度等の施策が考えられたと認識しております。

こういったところから、各施策が考えられておりますので報告させていただきました。

あと、このアンケートで一番は賃金引き上げと人材確保が最重要課題です。このアンケートから見えてきたものが賃金と人材確保でした。これは円卓会議から福祉条例へ、いろいろ施策が引き継がれてきたのですが、そもそもの目的でありました、この社会的な評価、その向上と人材育成というところでスタートしておりまして、その裏付けがこのアンケートでされたというところです。

それから、人材不足や人材育成につきましては、担い手の養成、人材発掘をしていかないといけない、ということで学生への体験学習であるとか、就職前の研修であるとか、資格の助成制度などが人材確保に有効ではないかということで、施策の中に落とし込まれております。

それから、福祉従事者の方というのは志が高い方がほとんどでございまして、そういった現場の方たちへの思いというのも伝えないといけないということで、市がしっかりバックアップしているというところを見せるという意味で先ほどの表彰制度や祝金といった施策に繋がっているところです。

それから事業所でございますが、事業所はこういう姿であるべきという意見がとても大きかったと思います。ですので、その事業所をどう評価するか、というところから、事業所支援チームの認定福祉事業者制度というものがあるんですが、素晴らしい事業所はそういった認定をしてあげてバックアップしていく、そんな施策が考えられたんじゃないかなと思います。そういった分析で、20の施策が落とし込まれていることを認識しております。

このアンケートにつきましては、本日は抜粋のものを用意してございますが、実際のアンケートは厚いものでございまして、これについてはホームページに載せてございますので、細かい個人の意見というのは載せてありませんが、大きな項目のところは載せてありますので、また見ていただければと思います。以上です。

(座長) はい。ありがとうございます。そのほかに何かお伝えいただくことはありますか。

(委員) 次回の会議までチームごとには動くんですね。そうするとさっき言った表彰の事について出た意見を事業所支援チームでどうするのか、検討をお願いします。

(事務局) 6月24日に実行委員会がありますので、今日会議で出た意見を持ち帰らせていただいて、もう少し内容について検討させていただきます。

(委員) 「非常に嬉しいです」という賛成意見も持っていないと、まるっきり反対だったみたいに見える。

(事務局) この推進会議の中で、そんなに表彰によるモチベーションは上がらない、という声もありましたが、反対にモチベーション上がるという意見があれば、ぜひ出していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員) 表彰されたことは小学生のポスターとかでしかなかったんですけど、朝礼で全校の前に出て、周りの人に知ってもらったのがちょっとうれしかったので、表彰もいいのかなと思います。

(委員) 賞状をもらうだけじゃなくて、動画でもいいですし、ピックアップされるのはやっぱり嬉しいですね。

(委員) 市から表彰してもらえれば、履歴書の賞のところに書けるじゃないですか。履歴書に普通免許しか書くものがなかったら、特にいいのではないのでしょうか。そうすると賞の名前は、キラリ何とか賞ではなくて、新城市市長賞、そのぐらいの方が良さそうですね。正式名称は、重みのあるやつの方がよさそうですね。

(委員) 若い子でボランティアに参加したというのを学校の履歴書に書ける。就職や進学で役に立つ。賞状があるかどうかわからないですけど、賞をもらえるのはいいですね。

(事務局) 選考は、実行委員会でするのか、推進会議でするのか、そのあたりで何かご意見があれば。

(委員) 事業所から推薦されてきた人をどうやって選ぶのか、その基準をつくらないと推薦する事業所も困るよね。それこそ介護技術大会みたいなのがあって、それで何秒っていうのだったらわかりやすい。でもそうじゃない。仕事の仕方なんて見てないから何とも言えない。相対的に評価がしづらい。高齢と障害と児童で比べたときに、例えば分野ごとにやるとしても何か基準がないと。分野でやると、例えば児童分野ってそんなにたくさんなかったりすると、高齢分野よりも表彰は頻回にしてもらえるのかもしれない。

(事務局) 事業所がかなりたくさんある中でどういった要件でっていうのが、ちょっとなかなか難しいというところがありましたので、持ち帰って検討したいと思います。もしこういった要件という意見がいただければ、ありがたいです。

(委員) 他の市町村を調べてみたら、10年、20年って年数が多いし、逆に100人単位で表彰されている。そういうのではなくて、その人材を確保したい、というのがあるので、新城は新城のやり方で人数も少なくてもいいのではないかと思います。

(委員) この会議2回目ですけども、何をなぜ、こうするのが少しわかってきた。やっぱり市でやるっていうことですから、事業所と事業者と市民が、よかったね、必要だね、と思うような中身を私たちが努力して作り上げていく、ということがおぼろげにわかって参りました。

(委員) たくさん職員が働いてるので、そういった表彰なりでピンポイントにスポットが当てられるのは悪い気は絶対しないと思いますので、前向きに進めていきたいと考えております。

(委員) なかなか難しい話で、事業所支援チームの中で3年って話も出てるんです。でもネーミングが永年だよねとか、年齢をどうするかとか、人数も当初の円卓会議の時って、もっとたくさん的人数でとか、

賞状はいらなくて金一封がいいとか、そういう話でまとまっていたのが賞状 50 枚分の予算だったから驚きました。市長さんからいただくので、賞状はいると思うのですが、いいじゃん券とかに変わらないですかってことを伝えさせてもらって、何とか来たところが、いいじゃん券と福祉事業所の詰め合わせはどうかっていうご意見が出てきてってところですよ。

結構行き詰まっていて、15 名をどう絞るのかとか、ネーミングも変えていいんじゃないか、永年だと本当は 10 年以上だとか、20 年とかが対象じゃないのかという話だったんですけど、さかのぼって背景を辿っていくと、若い人が 3 年目で辞めちゃうのをなんとかしたいという目的で作られたことだから戻ってみたいとかして。なので、ネーミングをキラリなんとかにして、永年っていうのをちょっと止めていいんじゃないかって話をいろいろしてる感じですね。なんか話が行ったり来たり、ちょっと難しいねって言ってます。

(事務局) 条件など制度を作るのがなかなか難しく、行ったり来たりしています。

(委員) 永年勤続表彰だけでなく、資格の助成も、よく調べてみると、結構助成金もらってて、実質無料で受けてる現状があるみたいなので、悩むところが多いなっていうのが、今の実行委員会の感じですよ。いろんな人から意見をもらえたらいいかなと正直思ってます。ちょっと行き詰まってる感じですよ。

(事務局) 会議が終わった後でも、こんなのがいいのではないかと意見をいただけるとありがたいですよ。

(委員) この表彰は、今年やって来年ガラッと変えるのは、やりにくさを感じる。他の施策はアレンジしていけると思うのですが、これは 1 回始めると、翌年全然違うことをやりにくくないですか。

(座長) 今年は一生懸命いろんなことを調べて考えて作る。というふうにしてもいいのかもしれない。今年、1 回やって来年違うことはやりにくそうだし、だから慌ててやらなくて、例えば今年いっぱい情報集めて、意見を集めてきて、それで少し考えてからにしてもいいのかもしれない。

(委員) 参考までに。会社でそういった表彰制度を作ったことがあるんですけど、結局、人が人を評価するというのは非常に恣意的になってしまうので、何年という数字で表せるものの方が持続性がある。そこでやったのが、例えば 10 年勤めたら、特別休暇を 1 週間あげる。旅行券も一緒にあげて休んで旅行に行ってください、というような。そうすればモチベーションがあがるし、休養にもなるし、ということで 20 年だと海外旅行とか。そうすると 8 年の人はあと 2 年頑張ろうと思いますよね。そうすると、もう 2 年頑張って、旅行に行ってからやめよう。ここだけは行くんだ、という気持ちになる。

長く居るということは、誰でもできることだけでも、優秀かどうかっていうのは、いろんな意見があるので、やっぱり勤続年数でしか評価ができなかったっていうのがあります。

(委員) 表彰制度を始めたがために、職場の雰囲気が悪くなって、何であの人が選ばれて、こんなに一生懸命やっているのに選ばれないのか、というようなことが出やすいので、ルールを作るとしたら、みんな

が納得できるような、これがあるから賞が出ますという、その納得できるルールをきちんと作って公表して、職場の方々にわかるようにしてやっていかないと、ひいきって言うようなものが出やすいのが表彰制度と思うので、皆さんが納得できるような数字にしておくのがいいと思います。

(委員) そうなると、年数で選ぶと 15 名っていうのは難しいですね。私も 10 年なのについて話になりますよね。15 名じゃおさまらない。

(委員) 新城市全体として大きな枠で見たときに、ここの事業所からこっちに移った、でも新城市としてはそれは全然いいことだ。豊川の事業所に行っちゃったらそれは駄目だろう、市内の中で動いたのを計算に入れて欲しいなと私は思います。

(座長) 急いで今年の 12 月 18 日に表彰をしなくても、ちょっと考え方とかやり方を検討してもいいかもしれない。

(委員) ちなみにこの事業所支援っていうカテゴリーとイコール表彰じゃなくてもいいわけですよ。例えば、高齢分野なんだけど、児童とクロスするようなプランを立ち上げた。けど、こんな予算が必要でこんなものが必要だと。障害分野だけ、例えば田んぼやってる人が亡くなったから、高齢化したから、うちが田んぼやろうと思うけど耕運機がほしいだったりとか。そういう素敵な地域のための素敵なプランをプレゼンする会が例えばあって、今回は、はい、おたくが金賞、15 万円みたいなものでもいいのかなとか、あの予算使えるんじゃないか、こうやってプレゼン出せばいいんじゃないかとか盛り上がっていききっかけになるのかなって、ふと思ったんですけど、個人にフォーカスするだけじゃなくてもいいのかなと思いました。

(事務局) 永年勤続を見て、これは無理だと思った。ですが、これは初めの一步で決まったことだから、やらなくてはいけないものだ、という話だったんです。これは制度的にとっても難しいものですから、ちょっとすぐには手を出せないかなと思ったのですが、前からの初めの一步っていう事業だったので、どうしていくかと考えたんですけど、そこら辺は気にしなくてもよろしいんですかね。

(委員) いいのではないかな。

(事務局) そういうことを言っていただけるのでしたら、もう一度じっくり地に足つけて考えたいと思います。

(終了)